

週刊

高齡者住宅新聞



橋本俊明会長

▲過去のサ住協大会の様子

集している。大会テーマは「サービス付き高齢者向け住宅で尊厳ある自立した生活を送るために」。研究発表が可能なのは、サ住協会員しくは非会員で

提供を行っている事業者・関係者。テーク側では「住まいとケアの分離」「24時間定期巡回訪問介護看護の事例」「営業方法等改善により入居率が向上した事例」「訪問看護と往診医への関わり方」「認知症入居者（BPSDのある人）の生活事例」などを発表テーマとして例示してい

介護業界最大の労働組合であるUAゼンセン日本介護クラフトユニオン（東京都港区）は昨年9月に組合員を対象に実施した処遇改善調査の結果を発表した。この調査は2009年より毎年実

月給制勤務者その組合員を送付。日施してい

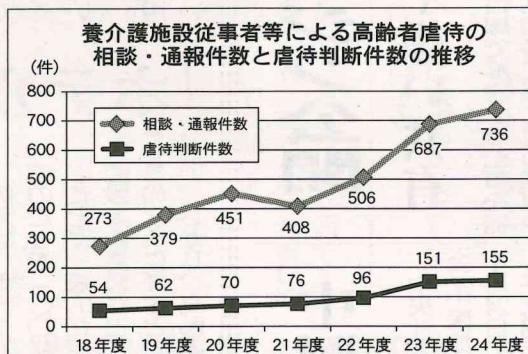
介護職員の処

事例研究発表者、募集中

る。発表時間は10分(うち質疑応答3分)。申し込みは演題・200字程度にまとめた要旨、発表者名などを添え、サ住協事務局までメールで送付のこと。3月上旬には発表者を決定する。

優れた高齢者住宅を選出・表彰

虐待件數、過去最多



虐待が認められた養介護施設を
類型で分類すると、特層の年齢層は、30歳未満が最も多く20・4%。年齢層が高くなる程全体に占

若い職員ほど

厚生労働省は昨年12月26日、平成24年度の高齢者虐待に関する調査結果を発表した。家族などの養護者による高齢者虐待件数は平成23年度に比べ減少した一方で、養介護施設従事者による虐待件数・通報件数は増加している。

経済的虐待は・1%増加した。その
居宅系で多発うち、実際に虐待行為が
養介護施設従事者によ
る虐待に関する市町村な
どへの通報件数は736
件。前年度より49件(7
件)、通報件数・虐待と判
断された件数に占める割合
は、実際には7件(1%)増加
した。

養が最も多く46件。次いで認知症グループホームの41件、老健の14件、有料老人ホーム11件の順。虐待の種類は身体的虐待が最も多く56・7%、心理的虐待が43・7%、介護放棄が12・2%、性的虐待が7・2%となっており、職員の性別による差異は29・8%。

厚生労働省は昨年12月26日、平成24年度の高齢者虐待に関する調査結果を発表した。家族などの養護者による高齢者虐待件数は平成23年度に比べ減少した一方で、養介護施設従事者による虐待件数・通報件数は増加している。

める比率は
虐待の発生
に回答して
る「教育・
術などに關

